

いっぽいっぽ

R 3・2・5 No.10
天草市立有明小学校
特別支援教育コーディネーター
山本美紀



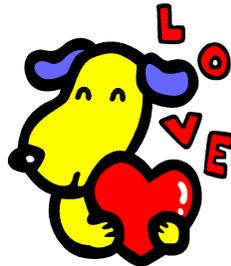
反省あるところに進歩あり

有明小は、ランチルームからのオーシャンビューは素晴らしいのですが、同時に風当たりが強い立地でもあります。そんな中でも、子どもたちが元気に遊ぶ姿を見ると懐かしくなったり、ほっとしたりします。

学校では、1年間のまとめの時期に入っています。学力テストも間近に控えています。学力テストが全てではありませんが、担任にとっては1年間の指導の評価ととらえ、残りの1ヶ月で自信を持って進級・進学するにふさわしい様々な力をつけるべく努力をするのです。

ご家庭では、いかがでしょう。私も子育て中は「食べさせて、寝せる。」だけの親だったので、偉そうなことは言えないのですが、反省あるところにしか進歩はありません。子どもたちに、よりよく生きるための筋道を見せているか（教えているか）1つの参考資料を記載します。

- 批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
- 敵意に満ちた中で育った子は誰とでも戦います
- ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります
- ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります
- 心が寛大な人の中で育った子は我慢強くなります
- 励ましを受けて育った子は自信を持ちます
- ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります
- 公明正大な中で育った子は正義心を持ちます
- 思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます。
- 人に認めてもらえる中で育った子は自分を大切にします
- 仲間の愛の中で育った子は世界に愛をみつけます



加藤 締三 著 アメリカインディアンの教えより

身近にできる子どもへの支援

～言われたことをすぐに忘れて気にしない子どもへの支援～

明るい性格で、いつもにこにこ。会話も上手で誰とでもすぐにうち解けられる。ただ、プリントを出すなどなんでもすぐに忘れてしまう。注意しても「あっ、忘れていた。」と全く反省の様子がない。



支援のポイント

- ☆人の話を意識して聞くこと
- ☆自分で意識して行動すること

を練習させましょう。

自分で気づけるような言葉をかけましょう。

- 例1 言われたことを忘れて違うことをしているときは、名前を呼ぶだけでも、はっきりして「あっ、そうだ。今は〇〇しようと思っていたんだ」と気づくことがあります。
- 例2 「〇時に△をしようね。」と一緒にタイマー設定などをしましょう。
- 例3 「帰ってきたら、この箱にプリントを入れます。」と書いた紙を貼った箱を用意し、習慣になるまで親子で確認。できていたらほめましょう。

思い出す仕組みを作ることで、自分で気づいて行動することができれば、子どもは、「最後までやり遂げた。」という自信と達成感を味わうことができます。

「忘れないでできたね。」とほめることも大切です。尚、「忘れる」という前に「伝わっていないかもしれない。」ということも考えてみてください。子どもに何かを伝えるときは、今やっていることをやめて、自分に注目させてからと言うのが基本です。遠くから声をかけて、「はいはい。」と答えても子どもの頭の中には入っていないと思った方がよいでしょう。

また、意外に多いのが、保護者がなんでもやってあげているケース。ほうっておくとやらないから・・・という親心ですが、それではいつまでたってもできるようにはなりません。

保護者サポートブックより